



平成28年 6月24日発行

第68号

北海道ムーブメント教育研究会会報

本年、1月7日に開催されました冬季講習会の様子を報告いたします。札幌市北区の新琴似小学校で行われた講習会は、「子どもの育ちがステップアップ！～音楽の授業を通して」というテーマで行われました。お二人の講師の方をお招きしての講習会は午前日程だけでしたが、終始、笑い声に包まれ、和やかな雰囲気の中で終わることができました。参加者の方々同士のコミュニケーションもはずみ、まさしく、「音楽」×「体」×「心」の一体化を感じた中身の濃いひとときでした。



講座1 『教科書教材アレンジ術』 ～音楽づくり編

講師 平野 次郎先生 (筑波大学附属小学校教諭)

ここ数年、平野先生には夏と冬の講座で大変お世話になっています。いつもながら子ども中心の、そして、参加者中心の楽しい音楽授業。「もっと違ったリズムができるかなあ～。もっと、音楽を作ってみたいなあ～。」と短時間の講座の中で参加者のモチベーションがどんどん上がってきます。そして、お隣同士のコミュニケーションもどんどん深まってきます。あつという間の2時間でした。

子どもたちが音楽作りを意欲的に取り組むために、どのように教科書教材をアレンジしたらよいか、もっともっとお話の続きをお聞きしたかったです。

講座1 アンケートから

- ・教科書をそのままやるのではなく、アレンジを加える。そうすることで、ワクワクした気持ちになりました。「教科書という『型』を破る」そういう気持ちで教科書を見ていきたいと思いました。
- ・平野先生の講座、毎回、大変勉強になります。今回も教科書の活用をくわしく実践していただき、参考になりました。さっそく、実践してみます。
- ・どこまでも子ども目線、子どもから教材を考える、子どもが楽しくできるように！これを基本にやっていきたいです。

講座2 『特別な支援が必要な生徒のための音楽表現』～音楽でそだてたいこと

講師 国府 由香利先生

(美深高等養護学校 あいべつ校教諭)

「私、紅白歌合戦が大好きなんです！」と満面の笑みで話された国府先生の講座、初めて参加された方々も先生のお人柄がぐっと、身近に感じられた瞬間だったのではないのでしょうか。いつも「歌なんか嫌いだ！」と言っている生徒たちに「どうやったら音楽を好きになれるのかなあ～。」と日々奮闘されている先生の熱意が伝わってくる講座でした。AKB48の「365日の紙飛行機」のグループごとの表現は、普段の歌練習や音楽作りでも実践できる内容で、音楽好きが増えることまちがいなし！！ですね。



講座2 アンケートから

- ・子どもの実態に合わせて教材をひもとくという新しい視点の音楽作りを体感させてもらいました。
- ・音楽が嫌いな子どもでもどうやったら楽しく音楽の学習ができるのか、という国府先生の精神に触れることができ、感銘を受けました。「子ども」をよく見て、私もそうありたいと思いました。
- ・大変な状況の中で、毎日授業をされていることに、まず、驚きましたが、そんな状況の中でも「音楽」を通して子どもの心を育てていこうという姿勢や授業のアイデア、とても興味深かったです。また、お話、聞きたいです。

F 1 レースとパリ・コレクション

研究部 高倉弘光

全国の国立大学に附属している学校は、それぞれの地域の教育に寄与すべく日々教育研究を進めている。私は旭川の出身で、親戚の家がたまたま教育大旭川の附属小学校の近くにあった。子どものころ、その親戚の家によく遊びに行ったもので、いとことめいっぱい遊びに興じ、帰るときは決まって夜遅くになっていた。父の運転する車に乗って帰途に就くのだが、いつも附属小学校には煌々と電気がついていて、「こんな遅くまで仕事してるんだ、この学校は…」と父が口癖のように言っていたのを思い出す。現在でも、夜遅くまで電気の点いている附属も少なくないだろう。その真摯な教育研究に対する姿勢に頭が下がる。

ところが、最近こんな話を聞いた。全国の附属（幼～高、特別支援含む）の関係者が集まったある会合があり、その席上で「マニアックな教育研究は自己満足に過ぎない。もっと公立学校に寄与できる一般的な研究でなければ、附属は地域の先生方に認められない存在になってしまうのでは？」というどなたかの挨拶があったそうだ。

私が直接その挨拶を聞いたわけではないので、その真意はわからない。確かに、研究は自己満足ではいけないし、周囲からの評価にしっかり耳を傾ける必要もある。

しかし…と思うのである。かの話を聞いて、本校に勤められていた音楽科の先輩である中島寿先生のおっしゃったことを思い出した。

中島先生は、附属がやるべき研究についてこんなことをかねがね話してくださった。「附属のやる研究は、F 1 とかパリコレでいいんだよ」と。「えっ？ それ、どういう意味ですかあ？」と尋ねる私。

「あのね、F 1 のあのマシンを一般に販売するわけではないのに、なぜ車のメーカーはこぞってF 1 に参戦しているのかってこと。F 1 では、究極の技術の粋を集めなきゃ勝てない。常に最先端の技術、最高の技術をもって参戦するわけだ。しかし、そこで得た知見や技術などは、一般に販売されている自動車にも生かされているんだよ。だから、附属の研究はちょっとマニアックに見えても社会の役に立っていると考えるべきだ。独りよがりなダメだけだね…」と中島先生。「なるほど～！ 面白いですね、その例え」。

「パリコレも同じ。よくテレビでファッションショーの様子が映ってるよね。例えばクリスチャン・ディオールだのシャネルだの…。あのショーで出てくる服は、あのまま街では着られない奇抜なものが多い。なかにはシースルーで、ほとんど裸体をさらしているようなものまでランウェイに登場している。しかし、だ。あそこに出した奇抜なデザインのアイディアは、市販されている洋服に生かされることになる。これも同じだね。だから附属の研究はパリコレ…とも言えるんだよ」

どうだろう、この考え方。私は大好きである。実は私自身、20 代の頃、附属に対してあまりいい印象をもっていなかった。特殊な教育をして、一般に益することはあるのだろうか…と懐疑的な見方をしていた。しかし今は違う。自分が附属に来て 15 年。「不断」の努力をもって「普段」の授業に役に立つような研究をしたいと思っている。
(たかくら・ひろみつ 筑波大学附属小学校)

北海道ムーブメント教育研究会

平成28年度・事務局体制

会長	大坂 克之 (あいの里大藤幼稚園長)
事務局 (総務)	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)
事務局 (研究)	上埜 光規 (札幌市立月寒東小学校)
事務局 (会計)	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)
研究担当	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
	畠山 美砂 (札幌市立伏見小学校)
	田尾 明子 (札幌市立新琴似南小学校)
	齋藤 恭子 (札幌市立幌東小学校)
	石田 晃大 (札幌市立もみじの丘小学校)
	国府 由香利 (美深高等養護学校あいべつ校)

会計担当	西 祐子
	三上 恵 (奈井江町立奈井江小学校)
広報担当	西 宏 (札幌市立篠路小学校)
	織田 暁知 (札幌市立資生館小学校)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似北小学校)
	中村 真紀
会計監査	本間 達志 (札幌市立篠路小学校長)
	塚本 宏美
常任顧問	堀田 吉宏 (北海道教育大学札幌校非常勤講師)
	亀山 比佐 (北翔大学・大学院)

「特別支援学校の窓」

北海道美深高等養護学校あいべつ校・国府 由香利

あいべつ校は、開校 3 年目に入りました。ようやく 3 学年の生徒が揃ったわけです。生徒もですが、職員室も少し賑やかになりました。生徒の一人が「先生、どこに行っても誰かがいるよね（笑）」そうなんです。今までは、結構、ガランとしてたんですね。

さてさて四苦八苦している私の音楽授業ですが、毎回、ドカンとウケたい！と今年度も淡い期待を込めて挑んでいきました。今年度一発目の音楽授業は、「あいべつ校のど自慢大会」今年度、あいべつ校に転入された先生方に歌っていただこうと依頼します。条件は「ウケること」だけです。生徒には、審査シートを渡してパフォーマンスを評価して貰います。私も含めて今まで 5 人の先生が奮闘しました。体育担当の先生→カツラ被って「舟歌」、作業担当の先生→作業着に鉢巻で「おら、東京さ行くだ」、進路担当の先生→福山雅治の真似で「家族になろうよ」、英語の初任の先生→英語の先生のミュージカル「ライオンキングより」、社会の先生→「365日の紙飛行機」そして私、今までつまらない音楽の授業ごめんなさいの意味で「つぐない」失笑、ため息、困惑と様々な感情が入り混じる音楽室・・・評価の審査シートには、「恥ずかしくないんですか」「物まねはやめた方がいい」「見たくない」…と言う感想の他に「歌唱力がすごい」「うっとり」と聞いた「爆笑だった」えっ？君たち、意外といい人だなあ。そうか、表情に出ないだけなんだ。この活動は、授業開始 10 分間。あとは合唱、合奏の練習と続くのですが、あれ？結構、声が出てるよね？歌えてるよね？と言うと何だかみんなニヤニヤしていました。私にとって上手いかないことばかりで意気消沈していた音楽の授業ですが、私の事が嫌いじゃないということだけはわかりました。ま、いっか。

「子どもと創る、を考える会」 2016年9月3日(土) 9:30~16:30

長沼町立南長沼小学校体育館（北海道夕張郡長沼町東5線南7番地）

参加費 3000円

「からだ気づき学びの人間学」「表現教育」の第一人者である横浜国立大学教授 高橋和子先生をお迎えして「子どもと創る教室」を思い描く一日を企画しました。

午前中は、道内の女性教職員による模擬授業、午後の講座では「からだ気づき」、からだワークを通して、バランスのとれたからだの動きや深い呼吸により得られる「生きる力」を感じたり、社会や文化や自然を顧みたり、音や動きや言葉で自分を表現したりする学びの場をお届けします。教育、福祉に携わる方々、お子様連れも大歓迎です。

～わたしたちの教室の実際～

9:30~9:45	「子どもと創る」教室読み聞かせ	戸来友美（千歳市立信濃小学校）
9:45~10:00	「子どもと創る」国語模擬授業	鹿野哲子（長沼町立南長沼小学校）
10:00~10:15	「子どもと創る」算数模擬授業	中原 茜（八雲町立東野小学校）
10:15~10:30	「子どもと創る」理科模擬授業	水戸ちひろ（豊浦町立豊浦小学校）
10:45~11:30	「子どもと創る」音楽模擬授業	国府由香利（美深高等養護学校あいべつ校）
11:30~12:30	リフレクションタイム	新川博子（中札内村立中札内小学校）
13:00~16:30	「からだ気づき」 体育授業を思い描こう ～私たちの” ころこ” からだ” にも耳を傾けて～講師 高橋和子 先生	
16:30~17:00	クロージングセッション	国府 由香利

動きやすい服装と上靴ご持参でお越しくください。昼食は近隣カフェ・レストラン利用もしくは敷地内での持ち込み飲食が可能です。

申し込みは、WEBサイト「こくちーず」からお願いいたします。

お問い合わせは、美深高等養護学校あいべつ校 国府由香利 (yukarinrinn1963@yahoo.co.jp)

「アイアイ」で「問いと答え」を楽しもう！ やってませんかコーナー NO.15

「アイアイ」は、交互唱を楽しむのに最適な楽曲です。「♪アーアイ（アーアイ）アーアイ（アーアイ）」と2回ずつ追いかけて歌う部分が繰り返してくるため、いろいろな歌い方をして、『問いと答え(模倣)』を楽しむことができます！

その1 2つのグループに分けて歌う

その2 1人が先に歌ってみんなが追いかける



その3 先に歌う子の体の動きも真似して歌う



「体の動き」も真似しながら歌うことで、『問いと答え(模倣)』の楽しさを、より一層感じることができます！「今度はどんな動きで、どんな歌い方をするのかな？」と、先に歌う子に注目して歌うことから、「次は、僕が先に歌ってみたい！」と、1人で歌うことへの抵抗感もなくなってきます！

平成28年度 夏季講習会開催要項

1. テーマ 「子どもの心に届く！楽しい表現活動！～音楽の授業を通して～」
2. 日時 平成28年8月6日（土）9：00～
3. 場所 札幌市立栄町小学校
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL：011-752-4130
(札幌市営地下鉄・東豊線「新道東駅」より徒歩8分)

4. 日程

8：30～	受付
8：55～	開会式
9：00～	講座1 伏見 千悦子先生（北翔大学・准教授） 「音楽療育 ～保育者を目指す学生との音楽遊び～」
11：15～	休憩
10：45～	講座2 高倉 弘光先生（筑波大学附属小学校・教諭） 「スキップ&合いの手で楽しもう！ ～鑑賞の授業に直結！特別支援でも使えるよ！」
12：20	閉会式

5. 主催者 北海道ムーブメント教育研究会
事務局 札幌市立栄町小学校内（細貝）
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL：011-752-4130
6. 後援 札幌市教育委員会（申請中）
7. 参加費 一般3000円、会員・学生2000円
8. 申込み 札幌市立月寒東小学校・上埜光規まで FAX 011-851-1619
<http://hokkaido-movement.jimdo.com/> 「北海道ムーブメント教育研究会」で検索